

学生募集要項

神学研究科神学専攻(博士後期課程)

2023年度

2023年度入学の募集は終了いたしました。

2024年度入学の募集要項は7月初旬頃に公開予定です。



東京基督教大学大学院

学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症に関する注意事項

本学キャンパス内で行う試験の当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、麻疹、風疹等）に罹患し治癒していない場合、他の受験生や試験関係者等への感染の恐れがあるため、受験をご遠慮願います。ただし、病状により医療機関で伝染の恐れがないと認められた場合は、この限りではありません。各自が体調管理については十分に注意してください。

また今後、感染症拡大状況により行政機関から指示・要請が出た場合など、所定の日程どおりに入学試験や合格発表等を実施することが困難であると本学が判断し、入試日程・試験方法の変更等の措置を講ずることがあります。その際は、本学Webサイトにてお知らせしますので、適宜確認するようにしてください。

なお出願開始後に何らかの変更が生じた場合は、当該志願者に対して電話やEメール等で連絡することがありますので、出願後は随時、着信やメールを確認するようにしてください。

また、受験後に学校保健安全法で出席停止が定められている感染症に罹患していることが判明した場合は、必ず本大学院入試担当まで連絡してください。

東京基督教大学

Webサイト： <https://www.tci.ac.jp/>

電話番号： 0476-46-1131

大学院入試担当 Email： graduate-school@tci.ac.jp

目 次

学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症に関する注意事項

I 本学信仰基準と建学の精神

- 1 信仰基準 — 1
- 2 建学の精神 — 2

II 大学院(神学研究科神学専攻)について

- 1 大学院の目的 — 2
- 2 大学院の構成 — 2

III 博士後期課程について

- 1 人材養成及び研究教育の目的 — 3
- 2 カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針) — 3
- 3 ディプロマポリシー(修了認定・学位授与に関する方針) — 3

IV 入学試験について

- 1 入学試験の流れ — 4
- 2 アドミッションポリシー(入学者受け入れ方針) — 4
- 3 募集人員 — 4
- 4 出願資格 — 5
- 5 出願前相談 — 5
- 6 選考日程等 — 6
- 7 審査内容 — 6
- 8 出願書類 — 7
- 9 入学検定料 — 8
- 10 出願書類提出先・問い合わせ先 — 8
- 11 不正行為への対応 — 8

V 入学手続き等について

- 1 合格発表 — 9
- 2 入学手続き・辞退手続き — 9
- 3 学生納付金(2023年度) — 9
- 4 奨学金(2023年度予定) — 10

VI シラバスと科目担当教員一覧

- 1 シラバス(2022年度) — 11～18
- 2 科目担当教員一覧(2022年度) — 19

交通案内と試験会場(裏表紙)

[巻末挟み込み]

- ・ 出願書類(様式1～12)
- ・ 大封筒(出願書類提出用)
- ・ 小封筒(本学からの受験票等送付用)
- ・ 宛名カード2枚(小封筒の中)

I 本学信仰基準と建学の精神

I-1 信仰基準

本学で基準とする信仰は、旧・新両約聖書に一貫して啓示され、古代公同信条に表明され、宗教改革において宣明された聖書的・歴史的・正統的信仰です。この信仰は、近代の自然主義的な啓蒙思想や自由主義神学の挑戦を受けながら、正統信仰の弁証と敬虔な信仰の実践とを目指す福音主義へと展開するにいたりました。その福音主義信仰を根本において支える個々の信仰箇条は以下の9箇条に述べるとおりです。

1. 66巻からなる聖書は、聖霊の完全な靈感によって、それぞれの著者を通して、記されたものです。したがって、聖書の記述には、誤りはありません。聖書は、神が救いについて人々に啓示しようとしたすべてのことを含み、信仰と生活との唯一、絶対の規範となるものです。
2. 生ける真の神は唯一で、永遠から永遠に、父・子・聖霊の三位であります。
3. 神は無から、目に見えるもの見えないものすべてを創造されました。すべての被造物は、神の絶対主権のもとにあります。
4. 人類の父祖アダムは、神のかたちにかたどって創造されました。アダムは、初め、神と正しい関係を保ちましたが、サタンの誘惑により、神のみこころに背いて罪を犯しました。その結果、罪の刑罰と腐敗をこうむって、霊的にも、肉体的にも死に服しました。ですから人間は、すべて罪の性質をもって生まれ、その思いとことばと行為において罪あるものです。
5. わたくしたちの主イエス・キリストは真の神であり、また真の人間であります。
主は聖霊による身ごもりを経て、処女マリヤから生まれました。主は、世の罪のために十字架にかかり、死んで葬られ聖書に従って三日目によみがえりました。主は天に昇って神の右に座し、わたくしたちのために大祭司の務めを果たされます。
6. 主イエス・キリストの身代わりの死のおかげで、主を信じる者はみな、罪をゆるされて義と認められ、神の子とされて罪の支配から解放されます。これ以外に救いの道はありません。
7. 聖霊は、罪ある者に、罪を認めさせて、信仰に導き、聖潔と奉仕の生活を送る力を与えて、キリストのかたちに似る者としてくださいます。
8. 教会はそのかしらであるキリストのからだですから、聖霊によって新しく生まれた者は、みな教会の一員です。地上の教会はそのかしらであるキリストにふさわしく信仰と純潔を保ち、またその命令に従って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなければなりません。
9. わたくしたちの主であり、また救い主であるキリストは、したしく肉体をもって再臨されます。義なる者も不義なる者も、それぞれ肉体をもってよみがえらせ、永遠の祝福か、永遠の刑罰かのどちらかへ定められます。終わりに、主は、すべてのものを新たにして、み国を父なる神におわたしになります。

I-2 建学の精神

プロテスタント福音主義信仰に立ち、教派を超えて21世紀の教会と社会に奉仕する世界宣教の働き人を育成するために、実践的な神学教育を施す。

1. 福音主義

聖書を誤りのない神のことばと信じ、かつ信仰と生活の唯一の規範とする福音主義に立って、正統的な神学に基礎づけられた教職者および奉仕者を育成する。

2. 超教派

超教派の神学教育に実績を持つ東京キリスト教学園にあって、教派を超えて日本の内外の諸教会と社会に奉仕し、その発展に寄与できる人材を育成する。

3. 実践的神学教育

福音主義諸教会や諸団体の期待と要望に応えるために、実践的神学を深め、教会と社会に仕える姿勢、行動力や指導力を養い、福音を肌で感じさせる人材を育成する。

4. 世界宣教

宣教の主イエス・キリストの大命令に応じて、世界各国とりわけアジア諸国に、キリストのからだである教会を建て上げる働き人として、宣教師や奉仕者を送り出す。

II 大学院(神学研究科神学専攻)について

II-1 大学院の目的

本大学院は、本学の建学の精神に基づいて、教育基本法に則り、学校教育法の定めるところに従い、キリスト者である男女に、神学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、高度専門職業人である教会教職者（牧師・宣教師・伝道者・教会教育従事者・教会主事等）および神学研究者・教育者としての深い学識、卓越した能力および品格を培い、教会と社会の安寧と発展に寄与することを目的とする。

II-2 大学院の構成

神学研究科神学専攻

課程・コース、※ ¹ 標準修業年限	学 位	※ ² 指導言語
博士前期・・・2年 ・教会教職コース ・研究教育コース	修士（神学） Master of Arts in Theology	日本語
博士後期・・・3年	博士（神学） Doctor of Philosophy in Theological Studies	日本語、英語

※¹ 本神学研究科では、本学「大学院長期履修規程」に基づき許可された者が、標準修業年限を超えて一定期間にわたり計画的に教育課程を履修し、学位を取得できる制度がある。詳細は教務部教務課大学院入試担当まで問い合わせること。

※² 博士後期課程では、授業、論文指導は日本語または英語で行われる。日本語学修歴がなくとも、英語のみで修了することも可能。

Ⅲ 博士後期課程について

Ⅲ-1 人材養成及び研究教育の目的

豊かな学識を養い、神学上の総合的な方法論を用いて高度で創造的な神学研究を行う。これにより、グローバル化し複雑化する教会と社会の神学上の諸課題について提言し、新しい未来の構築に貢献できる、本学や国内外の大学及び神学教育機関の神学研究者・教育者、教会・宣教団体・キリスト教NPO/NGO等の神学における高度な専門性と研究能力を持った指導者を養成することを目的とする。

Ⅲ-2 カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

博士前期課程における教育研究を土台にして、より高度な研究指導を行う。また、他の研究者たちとの議論や協働をととして問題解決を探る能力、及び論理的説明能力の涵養に留意する。

Ⅲ-3 ディプロマポリシー(修了認定・学位授与に関する方針)

博士前期課程において求められる能力に加え、以下に掲げる能力及び専門知識と研究能力を身につけ、3年の在学と所定の14単位以上を履修し、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、「博士(神学)」の学位を授与する。

- a. 神学の総合的で深い理解の上に立ち、高度で創造的な研究を行う能力を博士論文において実証し、かつ他者との協働をととしてその研究能力を発揮できる能力。

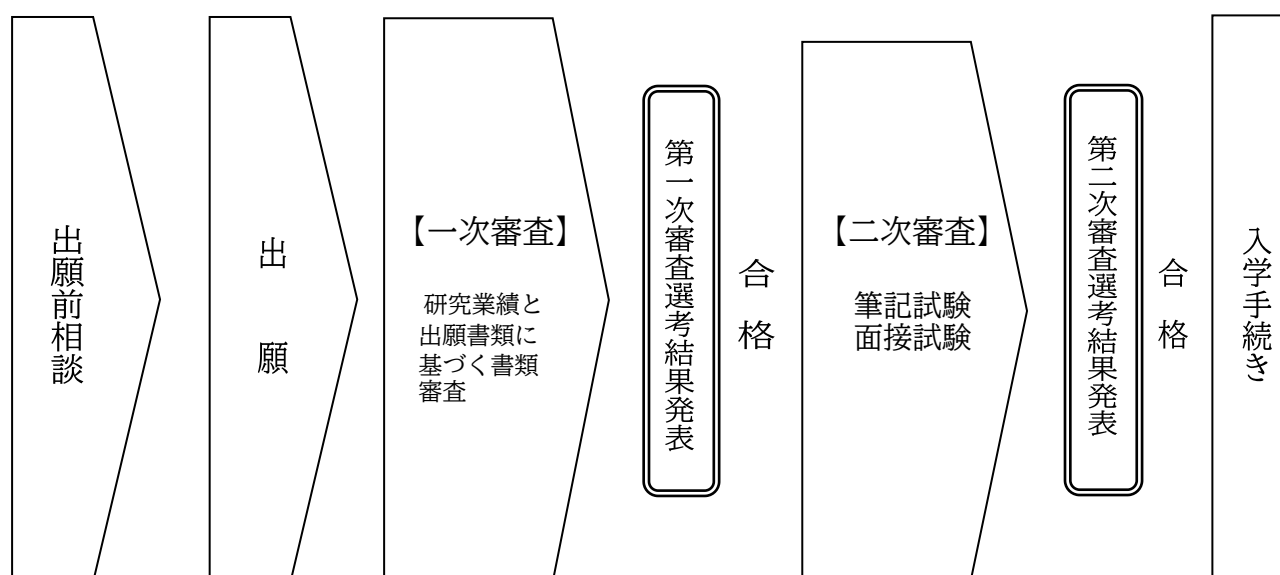
	基礎領域	専門領域
科目名	「神学特論」	「研究指導」
単位数	2単位	12単位

[博士前期課程において求められる能力]

- a. 今日の教会と世界が直面する神学的諸課題について、旧約・新約聖書の原語による解釈とそこから導き出せる原則に基づき、キリスト教の豊かな伝統と今日の状況に照らして分析・統合し、現代に対して意味のある神学を創造的に営む能力。
- b. 自らの知見を、他者に説得力をもって伝達するための論理構築をし、表現する能力。
- c. 現代の教会と社会において直面する多様な事態に、高い倫理性と品格をもって取組み、問題解決のために提言するだけでなく、他者を理解し協働する能力。

IV 入学試験について

IV-1 入学試験の流れ



IV-2 アドミッションポリシー(入学者受け入れ方針)

キリストへの信仰を表明し、かつ、本神学研究科博士前期課程の修了者、他大学の同等の課程の修了者、及びそれと同等の学力があると研究科委員会が認めた者のうちで、極めて優れた学力があると認められる者。

IV-3 募集人員

試験区分	試験方式	受験資格	募集人数
一般	対面方式	日本または外国の教育機関で神学の専門教育を受け、本研究科博士後期課程の出願資格を満たす者。	2名
	※ オンライン方式		

※ オンライン方式：インターネット経由の遠隔会議システムZoomを使用して実施する。

IV-4 出願資格

キリストへの信仰を表明する者で次の各号のいずれかに該当する者とする。

ただし、2023年8月入学希望者は1～8において、2023年3月を2023年7月と読み替えるものとする。

- 1 修士の学位又は専門職学位を有する者、および2023年3月までに授与される見込みの者。
- 2 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、および2023年3月までに授与される見込みの者。
- 3 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、および2023年3月までに授与される見込みの者。
- 4 日本において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、および2023年3月までに授与される見込みの者。
- 5 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者、および2023年3月までに授与される見込みの者。
- 6 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者。
- 7 文部科学大臣の指定した者。
- 8 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2023年3月31日までに24歳に達する者。

IV-5 出願前相談

受験希望者は本学において希望する研究を充分に行なうことができるか確認するため、**出願前**に大学院入試事務局へ以下のものを郵送すること。書類確認後、本学から受験希望者に連絡をする。書類の受付期間は、それぞれの試験の出願開始の概ね1ヶ月前までとする。書類提出先は、8ページのIV-10「出願書類提出先・問い合わせ先」参照。

提出物	備考
1 出願前相談申込書（様式8）	
2 修了（見込）校の成績証明書	神学専門教育を修了した（または見込みの）学校のもの。
3 修了（見込）証明書	神学専門教育を修了した（または見込みの）学校のもの。
4 修士の学位論文とその要旨	以下はA4の用紙サイズでそれぞれ1通提出する。
①日本語又は英語で執筆したもの	・修士論文の写し ・その要旨（和文2,000字程度、英文1,500ワード程度。）
②日本語・英語以外の言語で執筆したもの	・オリジナル言語の論文の写し ・その要旨（論文の内容を理解するのに十分な分量。日本語又は英語。）
③修士論文作成中の場合	・「研究経過報告書」（様式9） ・卒業論文の写し、または修士（博士前期）課程で作成したレポート（1本）の写し
④修士論文がない場合	・修士論文に代わる「学術論文」（1本）の写し（公表されたもの。） ・その要旨（和文2,000字程度、英文1,500ワード程度。）
5 入学検定料免除申請書（様式10）	対象に該当し免除を希望する者のみ提出。 提出の際は、パスポートのコピー（氏名等掲載のページ）を添付する。 8ページ「IV-9 入学検定料」参照。
6 健康状況票兼配慮の申請書（様式11）	身体等に障がいがある者のみ提出。本書は厳重に保管し、受験・修学・生活上の配慮に関する事以外に使用することはない。

IV-6 選考日程等

	11月入試	1月入試
入学時期	2023年4月又は8月	2023年4月又は8月
出願前相談 受付期間	出願受付開始の概ね1ヶ月前まで	
願書受付期間	2022年9月27日(火)～10月5日(水)必着	2022年11月21日(月)～11月29日(火)必着
一次審査選考結果発表	2022年10月21日(金)	2023年1月6日(金)
二次審査期間 (試験期間)	2022年11月17日(木), 18日(金), 21日(月), 22日(火), 24日(木) ※「英語」筆記試験日 11月24日(木)	2023年1月23日(月)～1月27日(金) ※「英語」筆記試験日 1月27日(金)
合格発表日	2022年12月1日(木)	2023年2月9日(木)
入学手続き締切日	2022年12月16日(金)必着	2023年2月24日(金)必着

注) ①入学時期を出願時に選択できる。

②第一次審査選考結果発表日に、国内在住者には電話で、国外在住者にはEメールで二次審査の日時を通知する。

③二次審査は該当期間のうちの1日。

新型コロナウイルスの影響等により二次審査の各試験日に受験できず、振替受験または追試験を希望し許可された者は、以下のように受験することができる。

本試験のために入学検定料を納めた者は、振替受験、追試験の入学検定料は徴収しない。

本試験			振替受験、追試験
入試区分	二次審査期間		
一般(11月)入試	2022年11月17日, 18日, 21日, 22日, 24日	→	一般(1月)入試へ振替え受験が可能。
一般(1月)入試	2023年1月23日～1月27日	→	追試験日程を対象者に通知する。

IV-7 審査内容

1) 一次審査

研究業績(修士論文又はそれに相当する論文を含む)、出願書類(研究業績に基づく博士後期課程における研究計画を含む)に基づき、書類審査を実施する。

2) 二次審査

① 対面方式

一次審査合格者に対して、以下の試験を行う。

試験区分	内 容	時間
一 般	① 英語(筆記試験) ※1	70分
	② 面接	60分

② オンライン方式

一次審査合格者に対して、口答試問、面接を行う。

試験区分	内 容	時間
一 般	① 英語(口頭試問) ※2	70分
	② 面接	60分

※1 以下のa)またはb)を満たした者は英語の筆記試験を免除する。

a) 以下のスコア取得者。ただしスコアは試験日より起算して2年以内を有効とする。

オフィシャルスコアレポートは願書受付締切日までに試験実施機関から直接本学に送付とする。

本学のIDコードは「8472」。

・日本語で博士論文を執筆する場合：TOEFL iBT90以上

・英語で博士論文を執筆する場合：TOEFL iBT101以上

b) 英語で大学院博士前期(修士)課程以上の教育課程を修了した者。

※2 試験の免除は対面方式の※1に同じ。

IV-8 出願書類

※ 海外から出願の場合は、英語版「Admissions Handbook 2022」の出願書類を確認ください。

提出物	巻末 様式	提出	注 意
1 受験票、入学志願票	1	○	志願票に写真貼付。(C、Dを提出)
2 履歴書	2	○	写真貼付。
3 救いの証しと出願理由		○	A 4 用紙に2枚(2,000字)程度。 本学の信仰基準についての意見、教会における奉仕についての記述を含む。
4 所属教会牧師等推薦書	3	○	厳封。英文可。
5 アカデミック・レファレンス		○	書式自由。日本語又は英語。 修士論文指導教員又はそれに相当する者。
6 成績証明書		○	出願前相談で提出していない、学部及び博士前期(修士)課程のもの。
7 卒業、修了(見込)証明書		○	出願前相談で提出していない、学部及び博士前期(修士)課程のもの。
8 博士論文 研究計画書	4	○	11～19ページ「VI シラバスと科目担当教員一覧」参照。
9 宛名ラベル	巻末	○	
10 受験票送付用小封筒	巻末	○	簡易書留分の切手を貼り、住所・氏名を明記。 本学在寮生は住所記入と切手不要。
11 TOEFLの公式スコアレポート		希望者	英語の試験免除希望者は、試験機関から直接 本学へ送付されるよう手配する。 本学IDコード「8472」
12 健康診断証明書	5	希望者	入寮を希望する者は提出しなければならない が、合否とは無関係である。
13 大学院神学研究科神学専攻(博士後期課程) 奨学金申請書	6	希望者	10ページ「V-4 奨学金」参照。
14 同窓生家族特別奨学金申請書・誓約書	7	該当者	10ページ「V-4 奨学金」参照。
15 オンライン受験に関する同意書	12	該当者	オンライン方式試験を希望する者は署名し 提出する。合わせて、入試担当者へ、オン ライン方式で受験する旨、電子メールで連 絡する。連絡方法は様式12の裏面参照。
16 パスポートおよび在留カードのコピー		外国籍者	パスポートは氏名欄のコピー。なお、出願前 相談の際提出した者は、再提出不要。 在留カード両面のコピー。(日本在住者のみ)

注) 様式の指定のない出願書類は受験生が各自用意すること。

【出願に際しての個人情報の取扱い】

出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報は選抜の実施、合否発表、入学手続き、奨学金業務、統計・分析、入学後教育指導上必要とされる範囲、またこれらに付随する事項を行うために適正な範囲で利用し、以上の目的以外には利用しない。

IV-9 入学検定料

- ・検定料(35,000円)は出願書類を提出する以前に、出願書類の様式1「振込依頼書」で銀行にて振り込むこと。
- ・振込みが確認できない場合は受験を許可しない場合がある。
- ・振込金受領書は検定料の入金を証明するものなので、大切に保管すること。
- ・いったん納入された検定料は、原則返還しない。
- ※1 ODA受給国リストに掲載される「Least Developed Countries」、「Low Income Countries which are not LDCs」の認定国に居住し、かつ該当国の国籍を有する者が免除を希望する場合は、出願前相談の書類を提出する際に、「入学検定料免除申請書(様式10)」を提出すること。掲載国リストは様式10参照。

※1 DAC List of ODA Recipients Effective for reporting on 2022 and 2023 flows

IV-10 出願書類提出先・問い合わせ先

出願書類は巻末の大封筒(出願書類用)を使用し、出願期間内に本学へ届くよう、**簡易書留等の配達状況が確認できる方法で郵送すること**。持参する場合は窓口対応時間内に受け付ける。

東京基督教大学 教務部大学院入試担当

〒270-1347 千葉県印西市内野三丁目301-5-1

TEL 0476-46-1131
FAX 0476-46-1405
E-Mail graduate-school@tci.ac.jp
WEBアドレス <https://www.tci.ac.jp>

窓口対応時間(月曜日～金曜日)

午前9時～午前11時50分、午前12時50分～午後4時45分

IV-11 不正行為への対応

不正行為があったことを示す明確な証拠が出てきた場合は、合格後及び入学後においても遡って入学を取り消すことがある。以下のような行為を不正行為とみなす。

- ・出願書類において虚偽の記載、偽造、剽窃をすること。
- ・試験の際に認められていない用具を使用すること。
(机上に置くこと、身に着けることを含む。)
- ・試験時間中に、携帯電話等の音を鳴らすこと。
- ・試験時間中に、カンニングすること。
- ・試験場において、他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- ・試験場において、試験官等の指示に従わないこと。
- ・その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

V 入学手続き等について

V-1 合格発表

各試験の合格発表日に、合格結果を受験者全員へ発送する。電話での問合せには応じない。合格発表日から数日経過しても通知が届かない場合は、本大学院入試担当まで問い合わせること。なお、受験者の便宜を考慮し、補助的な手段として以下の方法でも発表するが、必ず本学から発送される「合格通知」で確認すること。

- ・合格発表日午前10時より本学キャンパス内中央通路掲示板に、合格者の受験番号を掲示。
- ・合格発表日午前10時より本学Webサイトに、合格者の受験番号を掲載。

本学Webアドレス <https://www.tci.ac.jp/exam/happyo>



V-2 入学手続き・辞退手続き

合格者は、入学手続き締切日までに学生納付金を納入し、所定の書類を提出すること。締切日までに手続きを完了しない場合は、合格を取り消すことがある。詳細は合格通知書類とともに郵送する。

入学手続き終了後に本学への入学を辞退する場合、4月入学は2023年3月31日(金)までに、8月入学は2023年7月31日(月)までに申し出があれば、納付金を返還する。

V-3 学生納付金（2023年度）

合格者は入学手続き締切日までに「初年度納付額」を納める。分割を希望する場合、年3回^{※1}の分納が可能で、入学手続きの際は「入学手続き時最少納付額」を納入する。

本学学部、博士前期(修士)課程の学生は原則として入寮するが、博士後期課程の学生については、希望があれば入寮できる。ただし、各寮の収容能力に余裕がある場合に限る。

【初年度納付額】

単位：円

	初年度納付額	入学手続き時 最少納付額
授業料	672,000	340,700
施設費	246,000	
教育充実費	34,700	
小計①	952,700	340,700

【初年度寮費等】

	独身寮	家族寮A 1S, 2DK, B, T (44㎡)	家族寮B 2DK, B, T (39㎡)	家族寮C 1S, 1DK, B, T (37㎡)	入学手続き時 最少納付額
寮費	※3 263,100	263,100	263,100	263,100	199,700
家族寮加算分	-	336,900	278,100	237,000	
デポジット※4	-	20,000	20,000	20,000	
寮室電気料金	12,000	-	-	-	
食費	300,000	-	-	-	199,700
小計②	575,100	620,000	561,200	520,100	
合計(①+②)	1,527,800	1,572,700	1,513,900	1,472,800	540,400

※1 年3回：〔4月入学〕入学手続き時、8月、12月 〔8月入学〕入学手続き時、12月、4月

※2 S：スタディールーム、DK：ダイニングキッチン、B：風呂、T：トイレ

※3 シオン寮(独身寮、個室ユニット形式)に入寮する場合は別途追加料金(年間21,000円)が必要。

※4 退寮時に経年劣化以外の修繕が生じた分に充てる。

V-4 奨学金(2023年度予定)

※ 内容は変更される場合がある。

【学内奨学金】

奨学金名	概 要
大学院神学研究科神学専攻(博士後期課程)奨学金	給付奨学金。支給額は奨学生の経済状況などにより決定。 支給は最長3年で毎年度末に見直しあり。 希望者は様式6「大学院神学研究科神学専攻(博士後期課程)奨学金申請書」を出願時に提出する。
同窓生家族特別奨学金	給付奨学金。本学及び東京キリスト教学園各前身校の同窓生家族が対象。支給額は10万円(授業料より相殺)。 対象者で希望する者は、様式7「同窓生家族特別奨学金申請書・誓約書」を出願時に提出する。

【日本学生支援機構】

奨学金名	概 要
第一種奨学金（無利子）	貸与制無利子。貸与月額80,000円または122,000円から選択。
第二種奨学金（有利子）	貸与制有利子。貸与月額50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円から選択。
学習奨励費	給付奨学金。在留資格が「留学」である外国籍の者。 大学院レベル 月額48,000円

日本学生支援機構ホームページ <https://www.jasso.go.jp/>

<提携民間教育ローン>

本学では学生向けの民間の提携教育ローンも紹介しています。

提携教育ローンを利用された場合に、本学が在学中の利子を負担する制度もあります。

問い合わせ先

東京基督教大学 総務部 提携教育ローン担当

TEL 0476-46-1131

VI シラバスと科目担当教員一覧

VI-1 シラバス(2022年度)

神学特論(4月入学)

担当教員

木内 伸嘉、伊藤 明生、岡村 直樹(コーディネーター)、デイビッド・サイツマ

授業科目の概要

本科目は、神学的課題について、神学上の総合的な観点から取り扱うための学術的方法論を、高いレベルで修得することを目的とします。博士論文の作成には、修士論文と比較し、より独自性と創造性のある内容が求められます。そのため資料収集、分析方法及び研究手段についても、更に高度な理解を求められます。また英語による研究・討論の能力の伸長を意図し、授業は英語を主用言語として演習形式で行います。

授業のテーマと内容

- (木内) 「聖書学」領域における旧約聖書学の諸課題を理解させ、学術研究の方法論に習熟させると共に、重要な文献の紹介、学術雑誌や文献検索の方法について教授します。
- (伊藤) 「聖書学」領域における新約聖書学、聖書解釈学の諸課題を理解させ、学術研究の方法論に習熟させると共に、重要な文献の紹介、学術雑誌や文献検索の方法について教授します。
- (岡村) 「神学・教会」領域における実践神学、特に宗教教育学の諸課題を理解させ、学術研究の方法論に習熟させると共に、重要な文献の紹介、学術雑誌や文献検索の方法について教授します。
- (サイツマ) 「神学・教会」領域における教会史の諸課題を理解させ、学術研究の方法論に習熟させると共に、重要な文献の紹介、学術雑誌や文献検索の方法について教授します。

成績評価の方法と基準

授業参画度及び各課題

最終評価は、コーディネーターが行います。

教科書／参考書

木内

- ・D.A. Carson, ed., From Sabbath to Lord's Day: A Biblical, Historical, and Theological Investigation (Oregon: Wipf & Stock Publishers, 1999 rep.)
- ・Walter R. Bodine, Linguistics and Biblical Hebrew (Winona Lake: Eisenbrauns, 1992)

伊藤

- ・Anthony C. Thiselton, New Horizons (Zondervans, 1992)
- ・Anthony C. Thiselton, Two Horizons (Paternoster/Eerdmans, 1980)
- ・B.H. McLean, Biblical Interpretation and Philosophical Hermeneutics (Cambridge University Press, 2012)

岡村

- ・John Swinton and Harriet Mowat, Practical Theology and Qualitative Research (SCM-Canterbury Press Limited, 2006)
- ・Michael Quinn Patton, ed., Qualitative Research & Evaluation Methods (Third Edition; SAGE Publications, 2001)

サイツマ

- ・Alister Chapman, John Coffey, and Brad S. Gregory, eds., Seeing Things Their Way: Intellectual History and the Return of Religion (Notre Dame: University of Notre Dame Press, 2009), 134-153File 3.
- ・James E. Bradley and Richard A. Muller, eds., Church History: An Introduction to Research Methods and Resources, 2nd ed. (Grand Rapids: Eerdmans, 2016).

神学特論(8月入学)

担当教員

ランドル・ショート、伊藤 明生、岡村 直樹(コーディネーター)、デイビッド・サイツマ

授業科目の概要

本科目は、神学的課題について、神学上の総合的な観点から取り扱うための学術的方法論を、高いレベルで修得することを目的とします。博士論文の作成には、修士論文と比較し、より独自性と創造性のある内容が求められます。そのため資料収集、分析方法及び研究手段についても、更に高度な理解を求められます。また英語による研究・討論の能力の伸長を意図し、授業は英語を主用言語として演習形式で行います。

授業のテーマと内容

- (ショート) 「聖書学」領域における旧約聖書学の諸課題を理解させ、学術研究の方法論に習熟させると共に、重要な文献の紹介、学術雑誌や文献検索の方法について教授します。
- (伊藤) 「聖書学」領域における新約聖書学、聖書解釈学の諸課題を理解させ、学術研究の方法論に習熟させると共に、重要な文献の紹介、学術雑誌や文献検索の方法について教授します。
- (岡村) 「神学・教会」領域における実践神学、特に宗教教育学の諸課題を理解させ、学術研究の方法論に習熟させると共に、重要な文献の紹介、学術雑誌や文献検索の方法について教授します。
- (サイツマ) 「神学・教会」領域における教会史の諸課題を理解させ、学術研究の方法論に習熟させると共に、重要な文献の紹介、学術雑誌や文献検索の方法について教授します。

成績評価の方法と基準

授業参画度及び各課題

最終評価は、コーディネーターが行います。

教科書／参考書

ショート

- ・David W. Baker and Bill T. Arnold (eds.), *The Face of Old Testament Studies: A Survey of Contemporary Approaches* (Grand Rapids, Mich.: Baker Academic, 2004).
- ・Christopher M. Hays and Christopher B. Ansberry (eds.), *Evangelical Faith and the Challenge of Historical Criticism* (Grand Rapids, Mich.: Baker Academic, 2013).
- ・Patrick H. Alexander and Shirley Decker-Lucke (eds.), *The SBL Handbook of Style: For Ancient Near Eastern, Biblical, and Early Christian Studies* (Peabody, Mass.: Hendrickson, 1999).

伊藤

- ・Anthony C. Thiselton, *New Horizons* (Zondervans, 1992)
- ・Anthony C. Thiselton, *Two Horizons* (Paternoster/Eerdmans, 1980)
- ・B.H. McLean, *Biblical Interpretation and Philosophical Hermeneutics* (Cambridge University Press, 2012)

岡村

- ・John Swinton and Harriet Mowat, *Practical Theology and Qualitative Research* (SCM-Canterbury Press Limited, 2006)
- ・Michael Quinn Patton, ed., *Qualitative Research & Evaluation Methods* (Third Edition; SAGE Publications, 2001)

サイツマ

- ・Alister Chapman, John Coffey, and Brad S. Gregory, eds., *Seeing Things Their Way: Intellectual History and the Return of Religion* (Notre Dame: University of Notre Dame Press, 2009), 134-153File 3.
- ・James E. Bradley and Richard A. Muller, eds., *Church History: An Introduction to Research Methods and Resources*, 2nd ed. (Grand Rapids: Eerdmans, 2016).

研究指導

担当教員

木内伸嘉、伊藤明生、ランドル・ショート、岡村直樹、デイビッド・サイツマ

授業科目の概要

木内

「聖書学」領域の、旧約聖書学に関する研究について論文指導を行います。古代オリエントの言語文化を踏まえて、そこから生まれた旧約聖書の各書や諸テーマについて原語であるヘブライ語やアラム語のテキストの言語的・釈義的・神学的な側面について考察し、その今日的意義を問う学術的な研究を扱います。

ショート

「聖書学」領域の、旧約聖書学に関する研究について論文指導を行います。言語的・釈義的・神学的な側面、旧約聖書の各書やテーマの釈義的かつ神学的事柄、旧約聖書の原文やその翻訳にみられる問題点、旧約聖書の初代ユダヤ教・キリスト教解釈史などを問う学術的な研究を扱います。昨今の考古学上の研究成果を踏まえて、言語・文学・文化・宗教・社会・神学上の意味とその今日的意義を考察する学際的な研究を扱います。

伊藤

「聖書学」領域の、新約聖書学、聖書解釈学(聖書神学を含む)に関する研究について論文指導を行います。新約聖書の各書の歴史背景とテーマについて、ギリシア語本文に基づき、死海文書、フィロン、ヨセフス、外典偽典などの初期ユダヤ教文献やギリシア・ローマの哲学、修辞学などの諸文献と比較検討し、昨今の考古学上の研究成果を踏まえて、言語・文学・文化・宗教・社会・神学上の意味とその今日的意義を考察する学際的な研究を扱います。

岡村

「神学・教会」領域の、実践神学、特に宗教教育学に関する研究について指導を行います。価値観の多様化に伴い、宗教のあり方にも変化が求められる現代社会にあって、いかにして宗教教育の対象者を理解し、それを教育実践に活かすことができるかといった課題に関して、グラウンデッドセオリーを中心とする質的研究方法を活用した宗教心の調査や、教育対象者の主体性に焦点を当てる宗教教育論や実践の検証等を行う研究を指導します。

サイツマ

「神学・教会」領域の、教会史、歴史神学に関する研究について指導を行います。2世紀から現代までのキリスト教史の研究を扱います。学生は、ラテン語を含む原語の一次資料を、当時の社会的・知的文脈と照らし合わせながら研究します。学生は各自に関連性のある研究課題を追求しつつ、一次資料および適切な方法に基づいて課題を解決することを求められます。加えて、研究における客観性を高めつつ個々のバイアスを最小限に抑えるための方法論も学びます。

授業テーマと内容

【4月入学:1年次春学期 / 8月入学:1年次秋学期】

第1回 「オリエンテーション」「研究領域に関する検討①」

博士課程後期の研究指導の概要を確認する。研究領域に関する検討および「研究希望書」を作成に関する指導を行います。「博士論文指導チーム発足要請書」の作成に関する指導を行います。

第2回 「研究領域に関する検討②」

論文テーマ決定のため、研究方法、文献検索の方法、および研究計画の立案の指導を行います。「仮研究計画書」作成の指導を行います。

第3回 「研究領域に関する検討③」「関連文献・資料の検討①」

関連文献・資料の検討、研究方法、および「仮研究計画書」作成に関する指導を行います。1回目の研究中間発表会に向けた指導を行います。

【4月入学:1年次秋学期 / 8月入学:1年次冬学期】

第4回 「研究領域に関する検討④」「関連文献・資料の検討②」

1回目の研究中間発表会で指摘された「仮研究計画書」の問題点等に関する指導を行います。関連文献・資料の検討に関する指導を行います。

第5回 「研究領域に関する検討⑤」「関連文献・資料の検討③」

1回目の研究中間発表会で指摘された「仮研究計画書」の問題点等に関する指導を行います。関連文献・資料の検討に関する指導を行います。

第6回 「研究領域に関する検討⑥」「関連文献・資料の検討④」

「研究計画書」作成の指導。関連文献・資料の検討に関する指導を行います。

第7回 「研究領域に関する検討⑦」「関連文献・資料の検討⑤」

「研究計画書」作成の指導を行い、完成させます。関連文献・資料の検討に関する指導を行います。

【4月入学:1年次冬学期 / 8月入学:1年次春学期】

第8回 「研究方法の指導①」「関連文献・資料の検討⑥」

研究科委員会に受理された「研究計画書」に基づき研究を開始するための指導を行います。関連文献・資料の検討に関する指導を行います。

第9回 「研究方法の指導②」「関連文献・資料の検討⑦」

研究科委員会に受理された「研究計画書」の問題点等に関する指導を行います。関連文献・資料の検討に関する指導を行います。2回目の研究中間発表会に向けて指導を行います。

第10回 「研究方法の指導③」「関連文献・資料の検討⑧」

研究科委員会に受理された「研究計画書」の問題点等に関する指導を行います。関連文献・資料の検討に関する指導を行います。「研究成果中間報告書①」提出に向けた指導を行います。

【4月入学:2年次春学期 / 8月入学:2年次秋学期】

第11回 「研究方法の指導④」「文献精読①」

2回目の研究中間発表会で指摘された問題点等に関する指導を行います。本格的な研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。文献精読、調査等の指導を行います。

第12回 「研究方法の指導⑤」「文献精読②」

本格的な研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。文献精読、調査等の指導を行います。

第13回 「研究方法の指導⑥」「文献精読③」

本格的な研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。文献精読、調査等の指導を行います。3回目の研究中間発表会に向けた指導を行います。

【4月入学:2年次秋学期 / 8月入学:2年次冬学期】

第14回 「研究方法の指導⑦」「文献精読④」

3回目の研究中間発表会で指摘された問題点等に関する指導を行います。本格的な研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。文献精読、調査等の指導を行います。「研究成果中間報告書②」提出に向けた指導を行います。

第15回 「研究方法の指導⑧」「文献精読⑤」

3回目の研究中間発表会で指摘された問題点等に関する指導を行います。本格的な研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。文献精読、調査等の指導を行います。

第16回 「研究方法の指導⑨」「論文執筆指導①」

研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。論文執筆の指導を行います。

第17回 「研究方法の指導⑩」「論文執筆指導②」

研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。論文執筆の指導を行います。

【4月入学:2年次冬学期 / 8月入学:2年次春学期】

第18回 「研究方法の指導⑪」「論文執筆指導③」

研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。論文執筆の指導を行います。4回目の研究中間発表会に向けた指導を行います。

第19回 「研究方法の指導⑫」「論文執筆指導④」

研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。論文執筆の指導を行います。4回目の研究中間発表会に向けた指導を行います。

第20回 「研究方法の指導⑬」「論文執筆指導⑤」

研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。論文執筆の指導を行います。「研究成果中間報告書③」作成に向けた指導を行います。「博士論文提出願書」作成に向けた指導を行います。

【4月入学:3年次春学期 / 8月入学:3年次秋学期】

第21回「論文執筆指導⑥」

4回目の研究中間発表会で指摘された問題点等に関する指導を行います。論文執筆の指導を行います。

第22回「論文執筆指導⑦」

4回目の研究中間発表会で指摘された問題点等に関する指導を行います。論文執筆の指導を行います。

第23回「論文執筆指導⑧」

論文執筆の指導を行います。5回目の研究中間発表会に向けた指導を行います。

【4月入学:3年次秋学期 / 8月入学:3年次冬学期】

第24回「論文執筆指導⑨」

論文執筆の指導を行います。5回目の研究中間発表会で指摘された問題点等に関する指導を行います。

第25回「論文執筆指導⑩」

論文執筆の指導を行います。

第26回「論文執筆指導⑪」

論文提出に向けた指導を行います。

第27回「論文執筆指導⑫」

論文提出に向けた指導を行います。

【4月入学:3年次冬学期 / 8月入学:3年次春学期】

第28回「論文執筆指導⑬」「口頭試問指導①」

論文提出に向けた指導を行います。口頭試問に向けた指導を行います。

第29回「論文執筆指導⑭」「口頭試問指導②」

論文提出に向けた指導を行います。口頭試問に向けた指導を行います。

第30回「口頭試問指導③」

口頭試問に向けた指導を行います。

成績評価の方法と基準

授業への取り組み 50%

研究中間発表会 50%

教科書／参考書

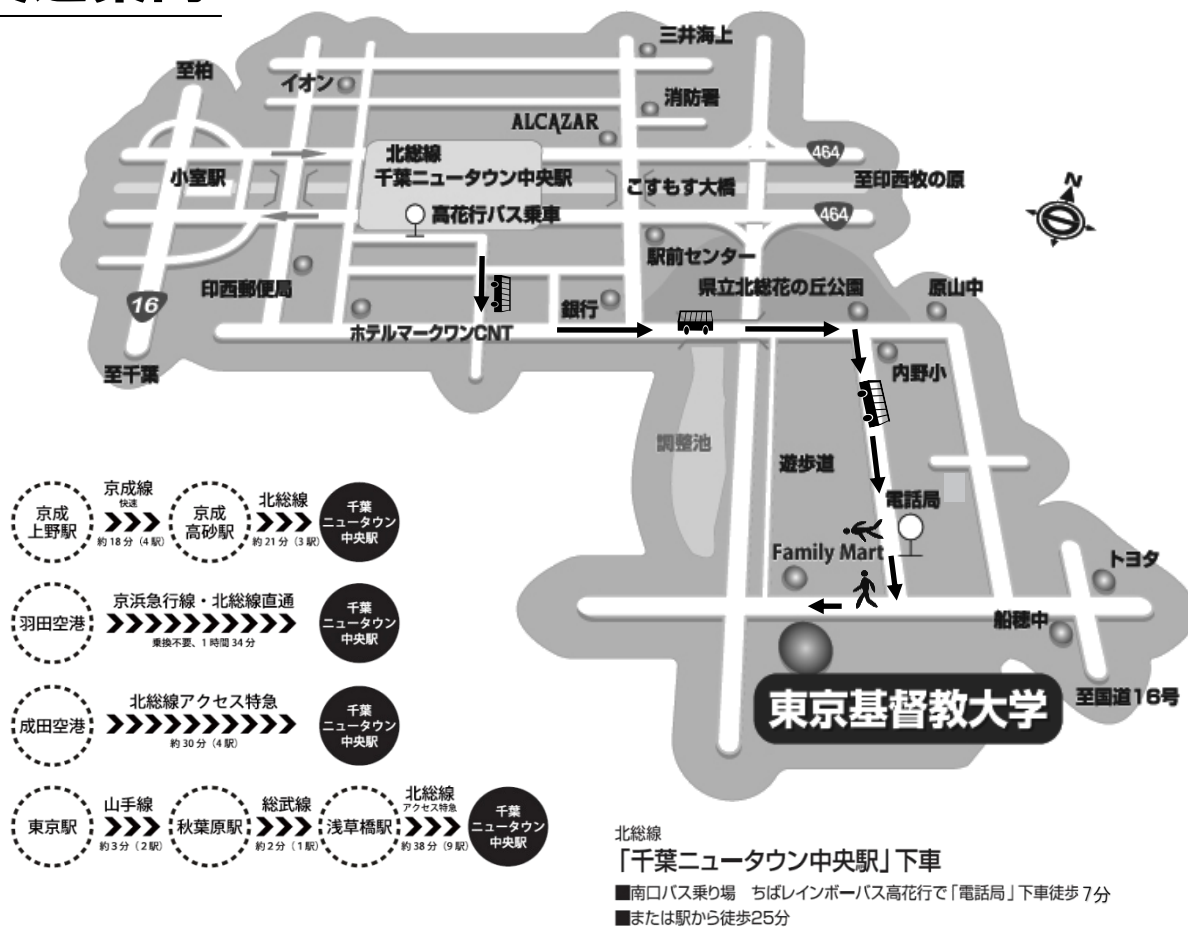
学生の研究テーマに合わせて、適宜指導します。

VI-2 科目担当教員一覧(2022年度)

研究領域	教 員	担当科目
聖書学	木内 伸嘉 (教 授)	神学特論 ※
		研究指導(指導教員) (研究キーワード) 旧約聖書神学、レビ記、エゼキエル書、罪、きよめ、贖い、宥め、聖、きよさ、汚れ、安息日
	ランドル・ショート (教 授)	神学特論 ※
		研究指導(指導教員) (研究キーワード) 旧約聖書学、ヘブライ語聖書、聖書神学、キリスト教・ユダヤ教解釈
	伊藤 明生 (教 授)	神学特論 ※
		研究指導(指導教員) (研究キーワード) 新約聖書と旧約聖書律法、新約聖書における旧約聖書からの引用、福音と律法、新約聖書写本、本文研究
神学・教会	岡村 直樹 (教 授)	神学特論 ※
		研究指導(指導教員) (研究キーワード) 宗教心の発達、ユースミニストリー、ペダゴジー、グラウンデッドセオリー
	デイビッド・サイツマ (准教授)	神学特論 ※
		研究指導(指導教員) (研究キーワード) 宗教改革、ポスト宗教改革、ピューリタニズム、啓蒙思想、聖書解釈史、倫理思想史

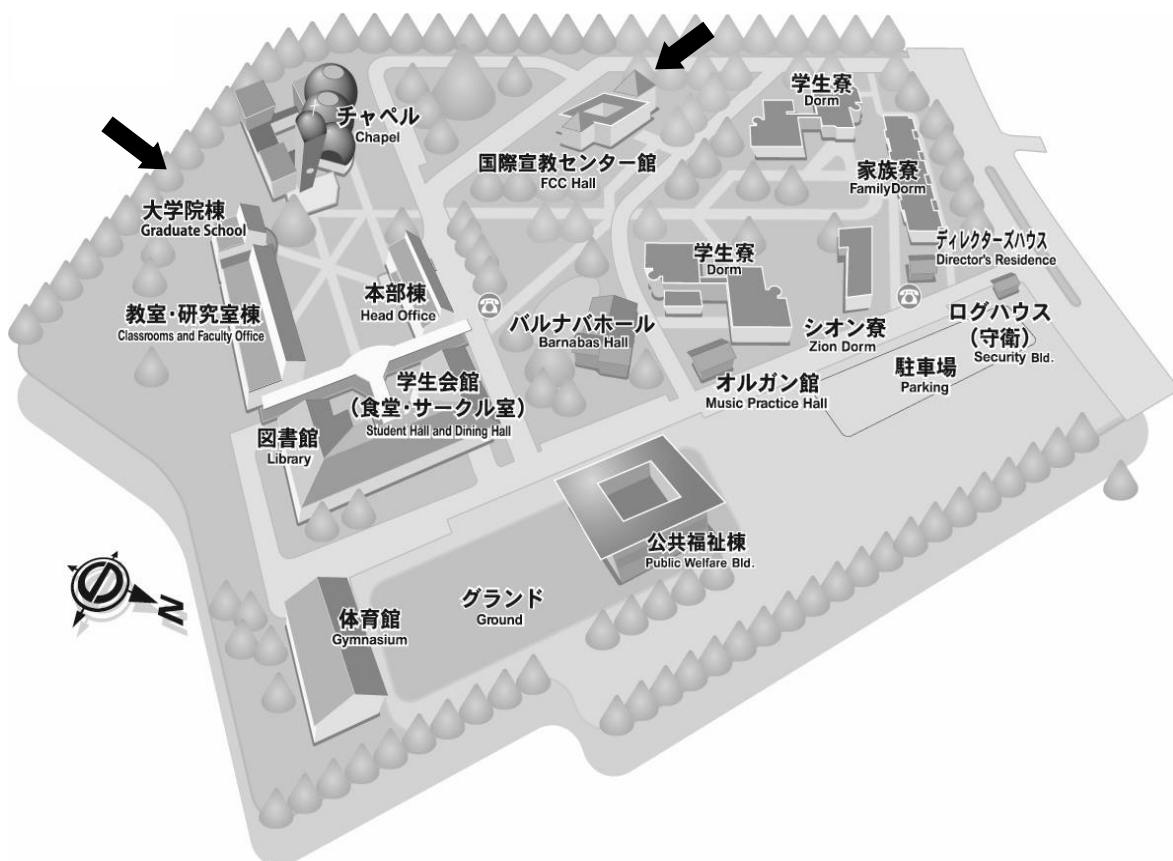
※オムニバス方式(複数教員で担当)

交通案内



試験会場

本学キャンパス内 大学院棟、国際宣教センター館



東京基督教大学

TOKYO CHRISTIAN UNIVERSITY

大学院 神学研究科

〒270-1347 千葉県印西市内野三丁目301-5-1

TEL 0476-46-1131

FAX 0476-46-1405

Email graduate-school@tci.ac.jp